

II 委託事業結果概要

<平成22年度>

- 1 女性のライフプランニング支援事業等を実施する、男女共同参画センター等地域の男女共同参画推進の拠点施設における総合的事業評価システムの開発、普及事業
- 2 困難を抱える若年無業女性のライフプランニング事業
- 3 生活困難を抱える若年（シングル）女性の自立支援プログラム開発事業
- 4 「アラサー女子の未来予想図」のプログラム開発
- 5 女子中高生のためのライフプランニング学習プログラム開発事業

1. 女性のライフプランニング支援事業等を実施する、男女共同参画センター等地域の男女共同参画推進の拠点施設における総合的事業評価システムの開発、普及事業

特定非営利活動法人全国女性会館協議会（東京都）

1. 事業趣旨

本事業は、男女共同参画センター等における望ましい事業評価の段階的構造を明らかにし、その段階ごとに全国各地の男女共同参画センター等で実際に活用できる具体的な評価システムを開発し、それらを包括する総合評価システムとして全国的な普及をはかるものとする。最終的に、規模の大小、地域性、施設の設置主体のあり方等々、男女共同参画センター等の多様性をふまえて、どの施設においても一定の研修を受けければ、自施設の特徴を生かした総合評価システムを自ら作成、運用することが可能なものとする。

2. 事業内容

前年度に公益財団法人横浜市男女共同参画推進協会が受託して実施した個別事業の自己評価システムの開発、検証をふまえ、今年度は、事業分野ごとの評価、さらに組織全体の評価が可能になる総合評価システムを開発する。また、全国の男女共同参画センター等がこの評価システムを導入・活用できるよう普及計画を作成する。普及計画の策定にあたっては、研修計画および研修を実施する際のファシリテーター養成計画を作成するものとする。

具体的な事業は次のとおりである。

- ①総合評価システムの開発、ワークシートの作成
- ②NPO等との協働事業における相互評価システムの開発、ワークシートの作成
- ③ベンチマークを把握するための調査に向けての資料収集
- ④普及計画（研修計画および人材育成計画）の作成
- ⑤男女共同参画センター等におけるプリテストおよび検証（全国3ヶ所）
- ⑥報告書の作成

3. 事業スケジュール

年 月	事 業 内 容
2010 年 6 月	・「女性関連施設・団体リーダーのための男女共同参画推進研修」(国立女性教育会館) で 2009 年度本事業の報告、および、男女共同参画センターに対する本事業への協力要請
7 月	・第 1 回連絡協議会 ・2010 年度「女性のライフプランニング支援総合推進事業」の概要について～2009 年度の振りりと 2010 年度の計画～ ・NPO 等との協働事業における相互評価の事例発表、意見交換
8 月	・第 2 回連絡協議会 ・NPO 等との協働事業における事業評価システムについて ・男女共同参画センターの総合的評価について ・今年度のプリテストについて
9 月	・第 1 回プリテスト（大田区立男女平等推進センター）
10 月	・第 3 回連絡協議会 ・NPO 等との協働事業における事業評価システムについて（まとめ） ・総合評価システムについて（まとめ） ・男女共同参画センター事業におけるベンチマークについて ・（報告）第 1 回プリテストについて ・全国女性会館協議会全国大会（男女共同参画センター横浜）で 2010 年度本事業の報告、全国女性会館協議会会員館に対する本事業への協力要請
11 月	・第 4 回連絡協議会 ・男女共同参画センターの事業評価におけるベンチマークについて（まとめ） ・男女共同参画センターにおける事業評価に関する研修の普及について ・（報告）2010 年度プリテストについて
12 月	・第 5 回連絡協議会 ・男女共同参画センターの事業評価におけるベンチマークについて（まとめ） ・男女共同参画センターにおける事業評価に関する研修の普及について ・報告書の作成について

	・第2回プリテスト（埼玉県男女共同参画推進センター）
2011年 1月	・第3回プリテスト（北九州市立男女共同参画センター） ・課題整理のための意見交換会①
2月	・課題整理のための意見交換会②

4. 連絡協議会メンバー

委員名	団体名・職名
入江 直子	神奈川大学人間科学部教授
桜田 今日子	独立行政法人国立女性教育会館専門官
松下 光恵	静岡市女性会館 アイセル21館長
宮口 郁子	横浜市市民局男女共同参画推進課長
山岡 由加子	みづほ情報総研株式会社社会経済コンサルティング部シニアコンサルタント
山崎 員世	財団法人横浜市男女共同参画推進協会事業企画課長
山下 浩	宝塚市総務部人権平和室人権男女共同参画課長
桜井 陽子	特定非営利活動法人全国女性会館協議会常任理事
鬼沢 幸子	特定非営利活動法人全国女性会館協議会事務局

(50音順)

5. 事業成果

①事業の総合評価システムの開発と相互評価システムの開発

昨年度開発した個別事業における評価システムの成果を踏まえ、事業分野ごとの評価およびセンター事業全体の評価を行う総合評価システムの開発と、さらに、今後一層ふえていくと考えられるNPO等との協働事業における相互評価システムの開発を行った。いずれも必要なワークシートも併せて作成した。その際、数値による実績評価を基礎としたうえで、コンセンサス・ミーティング、プロセス評価など必要な手法を活用し、経営判断に資するマネジメント・ツールとして有効なものとした。

②ベンチマークの把握と調査への提案

男女共同参画センターの事業評価におけるベンチマークの必要性を検討し、内閣府、国立女性教育会館データベース等既存調査をもとに、その把握の可能性を検証した。また、今後男女共同参画センターの組織基盤強化

のために、その活動のありようを示す各種数値が必須なことから、ベンチマークの基礎となる各種数値の把握について、文部科学省等への調査提案を行った。

③運営形態の異なる 3 カ所の男女共同参画センターにおける研修（プリテスト）の実施

昨年度に続き、運営形態や規模が異なる男女共同参画センター3 カ所で自己評価の普及のための研修（プリテスト）を、スタッフ研修のかたちで実施した。できるだけ多くのスタッフが参加できるように、いずれも休館日を丸1日使って実施した。自由記述欄には、「漠然とした課題が、目標値や評価指標の設定で明確になり、改善方法が見えてきた」「評価のための膨大な作業がなく、簡便な方法で評価できるので、ぜひ取り入れたい」などの声が多く、高い評価を得ることができた。

④組織基盤の強化への効果

事業ピラミッドの作成などワークショップを加えた研修（プリテスト）を通じて、あらためて担当する事業やセンター全体の事業を俯瞰することができ、組織のミッションをもとに、各事業を実施する意義や、今後の方針性などが把握できるようになったという意見が多くかった。事業の自己評価システム開発の目的は、各地の男女共同参画センターが一定の研修を受ければ、それぞれのセンターの特徴をいかした事業評価システムの運用が可能となり、それが組織の基盤強化につながることであったが、研修（プリテスト）を通じて、そうした目的にそった開発ができたのではないかと考える。

⑤簡便で使いやすいワークシートの開発

男女共同参画センターのように、年間を通じて数多くの事業を実施している組織では、評価の自己目的化は避けなければならない。昨年の個別事業の自己評価システムにおけるワークシート同様、事業の総合評価においても、協働事業における相互評価においても、実際に現場で“使える”ワークシートを目指し、簡便でコストがかからないものとした。

6. 今後の課題

①研修実施方法について

2 年間で 6 カ所のセンターで研修（プリテスト）を実施してきた結果、この研修は同一のセンターのできるだけ多くのスタッフ（できれば全スタッ

フ) が参加するのが、もっとも効果的であることがわかった。しかし、スタッフ全員を対象にしたほぼ 1 日がかりの研修は休館日等を利用せざるをえず、全員が参加でき、しかも負担にならない研修日程の工夫が課題である。

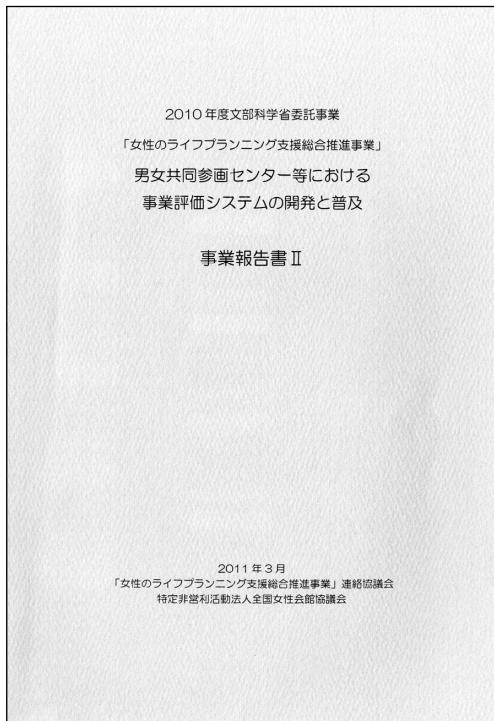
②自己評価システムの恣意性について

事業の自己評価システムにおいては、評価基準を自分たちで設定することによって、評価が恣意的に、甘くなるのではないかという疑問を呈されることがある。基準が甘くなる事態を引き起こす背景には、評価の結果がその事業の優劣や点数による成績を表すものとしてとらえられていることがある。しかし、自己評価の目的は事業の成績をつけたり、担当者の力を評価したりするものではなく、あくまでも次の事業への改善、ひいてはミッションにそった施設としてのあり方を見直していくことにある。こうした自己評価の基本的考え方について広く理解を得る説明が必要であると思われる。

③ 質的評価について

自己評価は数値で評価できる実績評価を基礎にしているが、事業の質の高さを評価できないかという意見も少なからずある。自己評価は、自分が担当した事業を自分自身で「いいと思う」「あまりよくないと思う」と評価しても、意味がないというところからスタートしている。それより実績評価を行うなかで、計画どおりにいかなかつた理由を検証し、改善への方法を探るなかで、事業の質的な課題もが明らかになっていく。時間とコストをかけない簡便な評価方法こそが、数多くの事業を日常的に実施している男女共同参画センターで自己評価を普及させていく必須の条件であると考え、実績評価を中心にシステムを作っていたが、実績評価を行うなかで実施した事業を検証し、次の計画に向かう過程で、質的評価も自ずと担保できるということを、実証していくことも今後の課題である。

7. 冊子等



2010年度文部科学省委託事業

「女性のライフプランニング支援総合推進事業」

男女共同参画センター等における

事業評価システムの開発と普及

事業報告書Ⅱ

2011年3月

「女性のライフプランニング支援総合推進事業」連絡協議会

特定非営利活動法人全国女性会館協議会

《連絡先》

特定非営利活動法人全国女性会館協議会

(<http://j-kaikan.jp/>)

住所：〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-8 日本女子会館ビル内

電話：03-6426-1700 FAX：03-6426-1701

E-mail：info@j-kaikan.jp

2. 困難を抱える若年無業女性のライフプランニング事業

特定非営利活動法人育て上げネット（東京都）

1. 事業趣旨

社会参画／労働市場への移行を強く望みながらも、解決すべき困難が放置されることにより一歩が踏み出せない女性に対する支援プログラムが、若年無業者支援機関では急務と考える。そこで、当該事業では、働きたいけど働けない、働くことに希望が持てない若年無業女性（概ね15歳から30代まで）に対し、現状だけの課題解決に依ることなく、長期のライフスパンのなかで自らの生き方を主体的に捉えられるようになるための「ライフプランニング」と、多様な選択肢の存在を認知したうえで、各ライフイベントが起こる段階で、再度、社会的／職業的困難に陥ることのない「キャリア形成」を一体で学習できるプログラムを開発、試行的実施を行う。そして、その際に、認知や行動変容などを定量／定性的に把握し、よりニーズにあったプログラムに発展させていくものとする。

2. 事業内容

- (1) プログラム開発にあたり、対象モデルとなる立川、川口、大阪の3つの地域若者サポートステーション女性利用者の実態把握のためデータを分析。
- (2) キックオフミーティング
 - ・当該事業の概要について
 - ・推進委員会およびワークショップ内容の共有
 - ・プログラム開発の進め方検討
 - ・実施計画書に基づくブレーンストーミング
- (3) 第1回検討委員会
 - ・NPO法人「育て上げ」ネットの企画提案概要説明
 - ・地域若者サポートステーションの概要と女性利用者の現状について説明
 - ・プログラム展開案説明
- (4) プログラムβ版試行

第1回検討委員会での討議結果をもとにベータ版教材を作成。4か所の地域若者サポートステーションにて試行を行った。

 - ・かわぐち若者サポートステーション(埼玉県川口市)
 - ・コネクションズおおさか(大阪府大阪市)

- ・たちかわ若者サポートステーション(東京都立川市)
- ・かわさき若者サポートステーション(神奈川県川崎地)

(5) 第2回検討委員会

- ・プログラム「Life Connection for WOMAN」β版開発報告
- ・試行結果報告
- ・プログラムデモンストレーション(全員が受講生として参加)
- ・意見交換(プログラム内容評価・プログラムの有効性・プログラム活用における留意点)

(6) 最終的にβ版の5点を見直し、プログラム開発が終了。

- 1) お助けカードの集約
- 2) お助けカードを補う身近なつながりの見直し
- 3) ゲーム性(テンポのよい進行)を妨げないカード構成
- 4) 仮想の自分が「選択する」機会の設定
- 5) ワークシート記入簡略化のための工夫

(7) 「Life Connection for WOMAN」正規版 実施

- ・かわぐち若者サポートステーション(埼玉県川口市)
- ・かわさき若者サポートステーション(神奈川県川崎地)
- ・たちかわ若者サポートステーション(東京都立川市)
- ・コネクションズおおさか(大阪府大阪市)
- ・育て上げ「ジョブトレ」(東京都立川市)

3. 事業スケジュール

「プログラム開発プロセス」

月	取 組	内 容
7	キックオフミーティング	実施計画書をもとに方向性の確認・フレームづくり
8	第1回検討委員会	プログラム展開案(第1稿)の検討
9	プログラム_版ツール開発	第1回検討委員会での検討結果をもとに展開案(第2稿)作成・ツール開発開始
11	プログラム_版試行	川口・大阪・立川・川崎4か所の地域若者サポートステーションで実施
12	プログラム展開案(第2稿)の作成	β版試行結果をもとにプログラム展開案の見直し
1	第2回検討委員会	事務局からの試行結果報告をもとにプログラムβ版の再検証
1~2	プログラム正規版の制作	第2回検討委員会での検討結果をもとにプ

		ログラムプレ正規版制作
2	プログラムプレ正規版の実施	川口・大阪・立川・川崎4か所のサポートステーションおよびジョブトレで実施
3	プログラム正規版完成	正規版実施結果をもとに最終調整

4. プログラム開発メンバー

「検討委員会」

委員名	職名
安藤 博子	株式会社キャリアネットワーク常務取締役
岩田 正美	日本女子大学人間社会学部教授現代女性キャリア研究所所長
榎迫 敦子	キャプラン株式会社執行役員職能グループ長補佐兼人事部長
森 裕子	精神保健福祉士
龍治 玲奈	日本マイクロソフト株式会社政策企画本部渉外・社会貢献課長

「事務局」

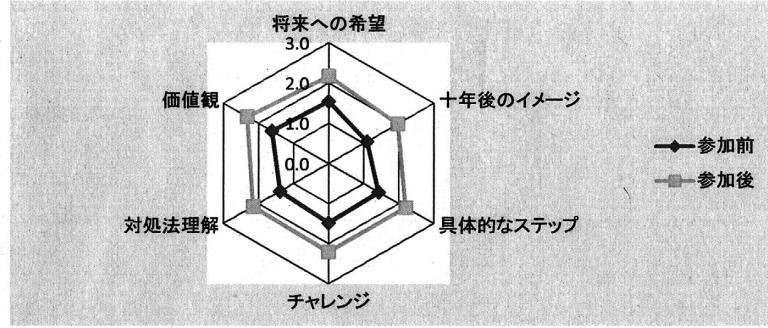
氏名	職名
山本 憲司	「育て上げ」ネット事業統括部長
深谷 友美子	「育て上げ」ネット広域担当部長
古賀 和香子	「育て上げ」ネット若年支援事業部課長
川田 朋実	「育て上げ」ネット若年支援事業部
永富 奈津恵	オフィス永富プランナー
戸高 信乃	オフィス永富

5. 事業成果

○プログラム正規版参加者のアンケートより

- ・プログラム参加前後の参加者の気持ちの変容を確認するため、「①将来への希望 ②十年後のイメージ ③具体的なステップ ④チャレンジ ⑤対処法理解 ⑥価値観」について、参加前後にそれぞれ確認した。その結果、参加者の大半が自らの将来へのイメージを膨らませており、本プログラムが一定の成果を上げられたと考えられる。

■全体平均



- ・「プログラム参加前に期待していた情報・できごとがプログラム中にあつたか」という問に対しても、
 - ・自分が幸せだと思う状況に対するイメージが明確になった
 - ・将来について考えた時、辛いことばかりかと思って不安だったが、トラブルを想定することができて助けてくれることも分かって不安が減った
 - ・講師から講義を聞く形ではなく、カードを使ってのゲーム感覚で、皆で考えて意見を言い合ってとても楽しかった。このことによって身近に考えることができた。
 - ・今まで悩んでいたことが小さく思えてきた。そうでなくともこれから人生何が起こるか分からないので今あるつながりや新たな繋がりを作っていくことが大切だと思えるようになった。
 - ・5年後、10年後の自分がどうしていったいかを自分自身で知ることができた。
- 等の感想をもらうことができた。

○困難を抱える若年無業女性のためのライフプランニング支援プログラム

「Life Connection for WOMAN」は参加者のみならず、実施した地域若者サポートステーションのキャリアカウンセラー、精神保健福祉士、社会福祉士など、日頃から若年無業女性の支援に積極的にかかわる方々からプログラムのユニークさ、受講後の効果など高い評価を得ることができた。また、各サポートステーションより、できるだけ早く支援メニューとして導入をしたいという声もいただいている。

○プログラムに期待を寄せてくださる方の声を聴く限りにおいては、主たる対象である若年無業女性のみならず、大学生、高校生をはじめとする教育現場や、シェルターなどに滞在する女性、母子家庭で子育てをする女性など対象範囲拡大の可能性が見えている。また、運営ルールがシンプルなプログラムであることから、参加者の傾向やニーズに緩やかに対応できる汎用性の高さも活かせるのではと思う。

6. 今後の課題

○プログラム普及のため、取り組むべき課題をプログラム開発事業者の立場から提示する。

■講師・ファシリテーターの養成

検討委員の助言などにもみられるとおり、効果的なプログラム運営には講師・ファシリテーターの支援者としての資質や支援機関や社会資源についての知識がカギを握る。よって、講師に求められる用件としてつぎの3点があげられる。

- 1) 場を和ませる「会話力」
- 2) 参加者の変化を感じ取る「観察力」
- 3) 複数のツール(カード・ワークシート)を使いこなす「段取力」

特に2)については、グループワークの中でのストレスなどをはじめ、小さな変化を感じ取るような力が大切と思われる。

■支援機関情報の収集(アップデート)と適切な発信

このプログラムの特徴のひとつであるお助けカードに記載されている施設・機関情報のみならず、具体的な活用事例、などを講師やプログラム管理者が持つことにより、参加者の有益性が担保されるとともに、プログラムそのものの鮮度を維持することも可能になると考えられる。

■参加者の困難度合に応じたプログラム運営の工夫

今年度の参加者の特性の中にはつぎのようなケースが見られた。

- 1) 社会経験(就労経験)が豊富な方、少ない方
- 2) 精神的なストレスを感じやすい方
- 3) 読み書きの苦手な方
- 4) 同性、同世代との交流が苦手な方

参加対象者が増加するとケースも一層多様化が予想される。これらの状況についてはプログラム中であればファシリテーター(進行補助)の参加などによるフォローが望ましい。

以上3つの課題を解決する有効な手段が、講師・ファシリテーター養成講座の実施であると考えている。資質向上、専門知識・情報の習得、ケース共有機会の創造を柱とした講座プログラムを企画検討してみたいと思う。

7. 成果物等

正規版ワークシート

Life Connection
for WOMAN

タイムスケジュールモデル


Life Connection
 for WOMAN

VII. プログラムの進め方

「Life Connection for WOMAN」講師・ファシリテーター用マニュアル(簡易版)

■事前の準備

- 各代のsocialカードとlifeカードをそれぞれまとめておく
- カードホルダーの一層上のボックスに10代～60代の各代が記されているカードを入れ、一番下のボケットにお助け記録カードを入れる

■事前にテーブルに配置しておくもの

- ・10代～60代のカードホルダー（計3枚）を各参加者の席に配置⇒A
- ・事前/事後アンケートを各参加者がの席に配置
- ・チップをテーブルの中央に配置

■タイムスケジュールモデル(標準3時間で実施の場合)

10分	• イントロ ・事前アンケート記入
50分	• シミュレーションゲーム(s t e p1～step7) • 10代～40代まで
15分	• 休憩
20分	• シミュレーションゲーム(step7) • 50代～60代
15分	• ワークシートI記入
10分	• お助けカード解説
15分	• ワークシートII設問1～3記入
5分	• 参加者同士の発表 • ※メンバー構成によっては行わない
15分	• 休憩
15分	• ワークシートII設問4～6記入
10分	•まとめ •事後アンケート記入



37

《連絡先》

特定非営利活動法人「育て上げ」ネット

(<http://www.sodateage.net/>)

住 所：〒190-0011 東京都立川市高松町2-9-22 生活館ビル3階

電 話 : 042-527-6051 FAX : 042-548-1368

E-mail : info@sodateage.net

3. 生活困難を抱える若年（シングル）女性の

自立支援プログラム開発事業

公益財団法人横浜市男女共同参画推進協会（神奈川県）

1. 事業趣旨

本事業は、2009（平成21）年当協会が試行実施した「ガールズ講座」等プログラムの有効性をさらに高めるために行った。若年女性無業者を対象として開発した「ガールズ講座」の本格実施に加えて、修了後の調査や意見交換会を実施し、検討委員会を設け、多角的な検討を加えた。

本事業の目的は、女性のライフプランニング支援事業を実施する男女共同参画センターにおいて活用できる、生活困難を抱える若年（シングル）女性の自立を支援するモデル・プログラムを開発し、支援のあり方について検討することである。

2. 事業内容

(1) 「ガールズ講座」の本格実施

- ・パソコン講座
- ・しごと準備講座
- ・講座修了生が講師を務める就労研修講座

(2) 検討委員会の設置・運営

- ・ガールズ講座の検証と改善
- ・多様な出口を視野に入れた講座修了後の支援のあり方についての検討
- ・地域の支援機関の連携、ネットワークによる支援のあり方についての検討

(3) 報告書の作成

○ガールズ講座についての詳細

①パソコン講座

当協会調査「若年女性無業者の自立支援に向けた生活状況調査」より、「パソコンが苦手」という回答が多かったことからパソコン講座を設けた。定員20人に対し、女性講師3人態勢で行っている。

パソコンを使って仕事をするという想定になっており、受講者は架空の旅行会社の擬似社員となって旅行のチラシを作ったり、ビジネスメール

を発信したり、顧客データベースを作ったり、売上管理を行ったりする内容となっている。

《カリキュラム》

	テキスト	学ぶ内容
1	ワード（基本操作）	・基本的な操作　　・入力の流れ ・保存　　・簡単なレイアウト
2	ワード（ビジネス文書とレイアウト）	・文書作成の流れ　　・ページ設定 ・レイアウト　　・印刷
3	ワード（表や絵を入れる）	・訂正　　・切り取りとコピー ・表作成　　・図の挿入
4	インターネット入門	・インターネットのしくみ　　・IEの使い方 ・お気に入り　　・検索
5	エクセル（基本操作）	・画面構成と基本的な操作 ・基本的な表の入力 ・修正　　・範囲選択　　・データの消去
6	エクセル（表の作成 1）	・表の作成と編集 ・実務で使用される関数 (SUM、AVERAGEなど)
7	エクセル（表の作成 2）	・絶対参照　　・表のコピーと移動 ・複数ワークシートの扱い
8	ビジネスメール	・メールの仕組み　　・ビジネスメールの書き方 ・CC、BCCの使い方
9	インターネットとメールの活用	・メールの活用方法（添付、圧縮など） ・セキュリティについて

※これは3時間×9日間の設定のカリキュラムである。

第4期は同じテキスト・内容を、2時間×10日間で行った。

②しごと準備講座

しごと準備講座では、緊張をほぐして心身の調子を整えながら、必要な情報を得、自分にあったしごとや働き方を考えしていくことをねらいとしている。講師は各分野の専門家でありながら生活困難を抱える若い女性を支援するマインドに富んだ、さまざまな年代の方を招いている。

《カリキュラム》

	内 容	担 当
1	写真による自己紹介(フォトランゲージ)&しごと準備のポイントと自分チェック	ファシリテーター
2	からだほぐし	無藤恭代（整体師）

3	自分を大切にする方法	久保彩 (アサーティブネス講師)
4	呼吸とリラックス、自分の声	木村静(ヴォイス&メディアプランナー)
5	就活&しごと体験談 セルフケアの方法をさがすワーク	修了生1、2名 ファシリテーター
6	適職チェック (VPI 職業興味検査の簡易バージョン使用)	ファシリテーター
7	安心のしくみを知り、社会の中の私を見つけよう(ライフプランとお金のこと)	内田ふみ子(ファイナンシャルプランナー)
8	アルバイトでも最低限知っておきたい法律、相談先	かながわ労働センター相談員
9	履歴書と写真、職務経歴書	坂坂公美子(よこはま若者サポートステーション)
10	自分を好きになるメイク講座 (株)イソワレストより資材と技術提供)	ザ・ボディショップ のボランティアのみなさん
11	ふりかえり、これから計画づくり	ファシリテーター
12	目標を語る交流会 修了後のフォローアップのご案内	ファシリテーター

※ 各コマは90分で構成。

③就労研修講座

「ガールズ講座」修了生のうち就労体験希望者を対象として研修を実施、研修を修了した者を一定期間スタッフとして雇用する「就労体験カフェ（めぐカフェ）」を男女共同参画センター横浜南（フォーラム南太田）で運営している。

就労研修講座は、すでにカフェスタッフとして就労しているメンバーが代わる代わる講師役になり、希望して研修を受ける後輩に自分が身につけた技術や体験を伝えるという目的で行っている。

(5回講座)

①先輩スタッフの体験談(1)

- ・どのように体調を管理して仕事に向かったか

②先輩スタッフの体験談(2)

- ・どのように仕事を覚え、自信がついたか

③写真撮影の基本技術

- ・講義(ホワイトバランスと色味)と撮影実習

④ブログ・ライティング＆ツイッター

- ・講義とブログ掲載実習、撮影した写真をアップする
- ⑤カフェ業務の流れとドリンク実習
 - ・一日の業務説明と留意点、コーヒー・紅茶の入れ方

3. 事業スケジュール

月	内 容
5月～ 6月	○パソコン講座 ○仕事準備講座
7月	○生活困難を抱える若年（シングル）女性の自立支援プログラム検討委員会（第1回） <ul style="list-style-type: none"> ・委員会の趣旨について、委員発題 ・男女共同参画センター横浜における若年女性支援の考え方と取り組みについて
9月	○生活困難を抱える若年（シングル）女性の自立支援プログラム検討委員会（第2回） <ul style="list-style-type: none"> ・講師および委員発題 ・若年女性支援における対象者の状況と課題 ・支援に必要な要素について
10月～ 11月	○パソコン講座 ○仕事準備講座
11月	○生活困難を抱える若年（シングル）女性の自立支援プログラム検討委員会（第3回） <ul style="list-style-type: none"> ・女性に特化した若年自立支援の必要性について ・若年女性自立支援プログラムの考え方・特徴・運営について
12月	○生活困難を抱える若年（シングル）女性の自立支援プログラム検討委員会（第4回） <ul style="list-style-type: none"> ・男女共同参画センターで行う若年女性のための自立支援プログラムの対象者像・出口・地域連携等について
1月	○生活困難を抱える若年（シングル）女性の自立支援プログラム検討委員会（第5回） <ul style="list-style-type: none"> ・「参加者評価」「追跡調査結果」「講師・支援者の意見」を受けての本プログラムについての意見 ・成果と課題について

	○就労研修講座（第1～3回）
2月	○就労研修講座（第4・5回）

4. 連絡協議会メンバー

「生活困難を抱える若年(シングル)女性の自立支援プログラム検討委員会」
《委員名簿》

委員名	所属(役職等)
小杉 礼子	労働政策研究・研修機構 (人材育成部門統括研究員)
龍治 玲奈	日本マイクロソフト株式会社 (社会貢献部渉外・社会貢献課長)
綿引 幸代	NPO法人ユースポート横濱 (よこはま若者サポートステーション 連携渉外責任者)
栗田 隆子	有限責任事業組合フリーターズフリー (組合員・編集者)
中山 陽子	横浜市 (市民局男女共同参画推進課担当係長)
納米 恵美子	財団法人横浜市男女共同参画推進協会 (男女共同参画センター横浜館長)
小園 弥生	財団法人横浜市男女共同参画推進協会 (事業企画課職員 事務局／本事業担当)

5. 事業成果

○身体性を重視したことの成果

本プログラムは、からだをほぐす、声を出す、メイクをするなど身体性を重視した内容となっている。この点は、企画の意図通りの成果につながった。身体性重視の内容としたことで、意識への働きかけによって気づきを促すというアプローチにありがちな思考の空回りに陥らずに済み、自己開示を迫られないため安心して参加できるというメリットがある。また、人の視線が気になる受講者が多いため、メイク、身だしなみといった外見からの働きかけが効を奏し外に出る自信につながっている。

○ライフプランニングの視点から本プログラムの意味を考えると、否定的な

経験による傷つきから回復のきっかけをつかめずにいた人にきっかけを提供し、一步踏み出す後押しをしたといえる。そのうえで中間的就労を経て、各自がさまざまな社会資源を組み合わせて生きていく道筋を提示した。

ライフプランを描くには、将来があるという感覚、生きていくという感覚がなければならない。その意味で自己否定から自己肯定へと向かうターニングポイントとなることが本プログラムの到達点である。一人ひとりの受講者がなんらかの気づきを得て、変化していった点は本プログラムの大きな成果である。また、講師が就労体験の機会を提供するなど、次につながる連鎖も生まれていた。

6. 今後の課題

○本プログラムを経て受講者が到達したのは自立へ向けて踏み出す入り口であって、働いて「食べていける」状態とはいえない。本プログラムの出口は、一人ひとりの受講者が自分の生きていけそうな方法を知り、自己選択によって活用できる資源を組み合わせて生活していく地点に立つところまでである。その先の支援は本プログラムの射程を超えており、日本においても社会全体でのさらなる取組が必要とされていると考える。

7. チラシ・成果物等

参加者募集のチラシ

第4期 ナラン「働きづらさに悩むあなたに……」

無料!

パソコン+しごと準備講座

「しごとはなかなか出来ない」「人間関係が苦手」「働けるかどうか不安」「でも、なんとか自分で力でやっていきたい」「パソコンが苦手で、よく言えなくて困ります」…。そんなあなたをお待ちしています!★ まずはお会いにおこしください。お会い当日より登録書をお受け取り!

【説明会】2010年9月30日(木) 13:30-15:00 定員25人

説明会会場: ●会話、HPにて前報、電話 045-862-5141

www.women.city.yokohama.jp/ 「フォーラム 横浜」で検索

【第4期本講座】10/26→11/15(木・金 全11回)

日時●10月26日-27日、29日、11月1日-2日-4日、5日-8日-9日-11日-15日

11:00~12:30 しごと準備講座 かただしくわしくし、明瞭でリッピックとの会話を身に、自分を大切にするサーティニス、選択チェック、働くことの問題解決していただき法律と相談

先輩の実体験 ミスマッチ解説、履歴書、就職活動の書き方、文房具、など。

13:30~15:30 パソコン講座 しごと準備講座+データ作成、エクセル、ビジネスメールの基本など。

会場&主催者: フラット男女会員の方に限り受講料7,000円

会員登録料: JR-横浜駅下車後、横浜西口より徒歩約10分で会場へJR横浜駅改札口より徒歩約10分

助成・協賛: 横浜市女性局・YKKアドバイザリーズ・女性と女性の会連携会議室

神奈川県女性会議室・ボランティア

対象・定員: 20歳以上 39歳までのシングル女性20人

(次回) 次回も大変な方向で運営して顶きます。

お問い合わせ: ハウスの女性会議室の担当者まで

本講座申込み: お申込書(裏面にご記入の上)の郵便局宛納付

提出ください。9月30~10/12(必着)。抽選

問合せ: 電話 045-862-5141 フォーラム 事務室専用メール: klikak@women.city.yokohama.jp

「横浜ガールズ」で検索★

第3期講座カリキュラム（2010年春）

ステップ しごとに役立つ パソコン講座

ワード、エクセル、インターネット検索、ビジネスメールの基本をていねいにお伝えします。女性講師3人体制で、わからぬことは何度も聞く、と好評☆

ここでは、みなさんがガールズ21トラブル係の社員だと想定します。さて、パソコンを使ってどのように仕事をしましょうか。ゆっくりじと体験しながらスキルアップ！

テキスト作成・企画・講師：NPO 法人ITスキルサポートフォーラム
時間はいずれも 13:00～16:00 どちらか休憩あり ベットボトル持込自由です。

日 程	テキスト	学ぶ内容
5/28(金)	ワード（基本操作）	<ul style="list-style-type: none"> • 基本的操作 • 入力の流れ • 保存 • フォント • 文書作成の流れ • ページ設置 • レイアウト・印刷
5/31(月)	ワード（ビジネス文書とレイアウト）	
6/1(火)	ワード（表や絵を入れる）	<ul style="list-style-type: none"> • 表の挿入 • 図の挿入 • イメージの取りこみ • 表の表示 • 表の挿入
6/3(木)	インターネット入門	<ul style="list-style-type: none"> • インターネットのしくみ • E-mailの使い方 • ブラウザの使い方
6/4(金)	エクセル（基本操作）	<ul style="list-style-type: none"> • エクセルの画面構成と基本的な操作 • 基本的な表の入力・修正 • 関数選択 • 表の作成と重ねる関数（SUM、AVERAGEなど） • 絶対参照 • 表のコピーと移動 • メールの仕組み • ビジネスマールの書き方
6/7(月)	エクセル（表の作成1）	
6/8(火)	エクセル（表の作成2）	
6/10(木)	ビジネスメール	<ul style="list-style-type: none"> • CC、BCCの使い方 • メールの送り方 • 添付、仕附など • セキュリティについて
6/11(金)	インターネットとメールの活用	

80

2 しごと準備講座

心身の調子を整えながら、必要な情報を得、自分に合ったしごとや働き方を考えていきましょう。
それよりの専門家があなたのいいところを発見するお手伝いいたします。

メイク講座 材料＆技術提供：
㈱イオンフレッシュ（ザ・ボディショップ）

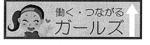
協力：よこはま若者サポートステーション

時間はいずれも 11:00～15:00
昼休みあり、ランチルームを利用できます！ただし本体のみ。

日程	11:00～12:30	13:30～15:00
6/14(月)	真夏を使った自己紹介&自分を知る （整体師 無藤恭代）	からだほぐし心地くら （整体師 無藤恭代）
6/15(火)	自分を大切にする方法 （アサヒシステム講師 久保玲）	呼吸とリラックス、自分の声 （ヨガ＆スピリチュアルカウンセラー 木村静）
6/17(木)	パソコン勉強会、ツイッターしおう （ヨガ＆スピリチュアルカウンセラー 木村静）	ワーク「私の好きなこと得意なこと」とわからい
6/21(月)	履歴書・職務経験書書いてみよう （よこはま若者サポートセンター カウンセラー）	就活 & しごと体験談 （1期生 2名）
6/22(火)	ロバソン講習会 名刺・カード作り	自分を好きになるメイク講習 （メイクアップアーティスト トーラー）
6/25(金)	履歴チェック	最終段階～おきだい法律、相談先 （ひながた労働センター 相談員）
6/28(月)	体験談2（美術館派遣社員で絵本作家たまご） おさらい	目標を語る交流会

ロバソン講習会は、各人の興味に講師のサポートまで取り組めます。

主催●財団法人横浜市男女共同参画推進協会、横浜市
助成●マイクロソフト 助力企画女性会議協議会
会場●男女共同参画センター横浜（フォーラム）
交通●JR市営地下鉄戸塚駅西口・徒歩5分
電話●会場＆内容とも：045-862-5141
<http://girls-support.web.officelive.com>



81

《連絡先》

公益財団法人横浜市男女共同参画推進協会

(<http://www.women.city.yokohama.jp/>)

住 所：〒244-0816 横浜市戸塚区上倉田町435-1

電 話：045-862-5141 FAX：045-862-3101

E-mail : kikaku@women.city.yokohama.jp

4. 「アラサー女子の未来予想図」のプログラム開発

特定非営利活動法人男女共同参画フォーラムしづおか（静岡県）

1. 事業趣旨

女性にとって、結婚や出産といったライフイベントが男性に比べて人生の選択に大きな影響を及ぼすことは、時代が変わった現在でもなお大きな課題である。多様な生き方が認められ選択肢も増えたことにより、悩みや迷いも多いのが30歳前後の世代である。

経済環境、雇用状況が大きく変動したため、若い女性を中心により一層「安定」を求める「専業主婦」志向も強まっているが、現実には、希望しても従来の男性稼ぎ主型のライフコースを歩める女性はわずかである。これからは、男女が共に働き、家事や子育てを分かち合う時代である。個人の生活も社会生活も大切にできる人生設計を立てられるよう支援をしていく必要がある。

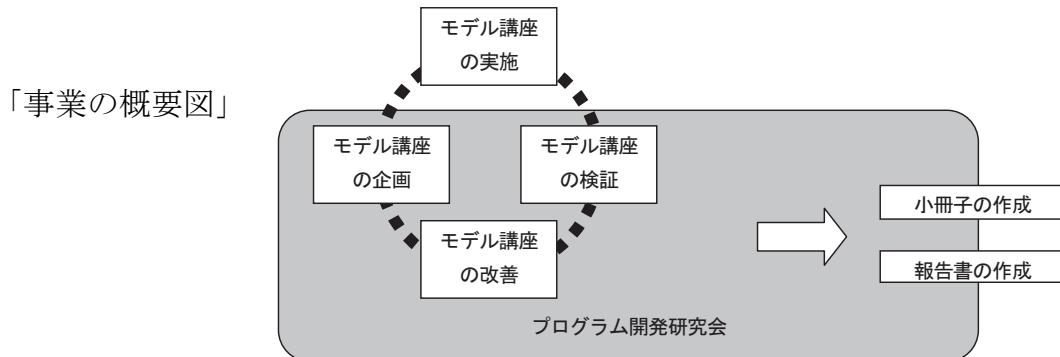
そこで、結婚、出産といった多くのライフイベントを控える30歳前後の働く女性を対象に、自分の人生を主体的に選び取ることができるよう、就業継続支援とともに長期的な視点でライフプランを立てることを支援する事業を行うこととした。また、事業に参加した女性たちに、女性を取り巻くさまざまな問題解決の場として、生涯にわたって女性会館を利活用できることを知らせることも重要だと考えた。

2. 事業内容

現在働いている30歳前後の独身女性を対象とした学習プログラム（8回講座）を開発し、試行した。

このプログラムにより、終了時点で受講者が具体的なライフプランを描けるようになり、同じ立場の受講者同士がつながりあえるようになることを目標とした。

プログラムを開発し、試行した結果を踏まえて、その有効性を検証するために研究会を設置し、年3回開催した。



3. 事業スケジュール

◎モデル講座プログラム

アラサー女子限定！「ワタシが選ぶ♡これからのワタシ」（全8回）

	日時	タイトル	講師
①	9/29 (水) 19:00～21:00	【公開セミナー】 藤沢久美流キャリア・デザイン	藤沢久美さん (ソフィアバンク副代表)
②	10/13 (水) 19:00～21:00	女子力をアップさせる ジブン計画	福沢恵子さん (ジャーナリスト)
③	10/20 (水) 19:00～21:00	これだけは知っておきたい！ 恋愛×結婚論	伊田広行さん (大学講師)
④	11/3 (祝) 13:30～15:30	ピンチをチャンスに変える キャリア・ストーリー	※ゲストスピーカー 内田美紀子さん 塚本由紀江さん 橋本恵子さん
⑤	11/17 (水) 19:00～21:00	後悔しないための カラダ・マネジメント	森典子さん (県立総合病院副院長)
⑥	12/1 (水) 19:00～21:00	お金のプロに聞くマネーの法則	上岡弓見子さん (ファイナンシャル・プランナー)
⑦	12/15 (水) 19:00～21:00	成功のカギを握る コミュニケーション力	坂巻美和子さん (コミュニケーション・トレーナー)
⑧	1/15 (土) 14:00～16:00	ワタシが選ぶこれからのワタシ	福沢恵子さん (ジャーナリスト)
	17:30～19:30	女子会（自由参加）	ゲスト・福沢恵子さん

○プログラム開発研究会

開催日	内容
平成22年7月2日（金） 13：30～15：30	事業の趣旨説明、今後の日程 モデル講座の内容についての検討
平成22年11月25日（木） 16：00～18：00	モデル講座の実施状況報告 小冊子・報告書の検討
平成23年3月1日（火） 16：00～18：00	全体のまとめ、モデル講座の検証 小冊子・報告書の確認

4. 連絡協議会メンバー

氏名	所属
内田 美紀子	(財) 満井学生就職支援奨学財団事務局長 元就職情報誌・人材派遣会社役員、キャリア・アドバイザー
渋江 かさね	静岡大学教育学部准教授（生涯学習課程）
高橋 美稚子（10月より） 大河原 久美子（～9月※） ※転勤により委員交替	静岡銀行経営管理部給与厚生グループ
福沢 恵子	ジャーナリスト・昭和女子大客員教授
谷口 年江 早野 真知	（事務局）静岡市女性会館指定管理者 NPO法人男女共同参画フォーラムしづおか

(50 音順)

5. 事業成果

- 公開セミナーを含め、女性会館の事業に初めて参加した人が33人にも上り、新しい利用者開拓の成果をあげることができた。また、セミナー受講者から女性会館の運営等について、直接意見を聞く機会を設けることもできた。
- 全講座修了時のアンケートから
 - ・当初の目標である『具体的にライフプランを立てることができた』については、「そう思う」と回答した人は、20人中1人（30代前半）だけであったが、「少しそう思う」は65.0%であった。もうひとつの目標である『受講者の中でつながりができた』については、「そう思う」が55.0%を占めたが、年代別にみると、30代前半で72.7%、20代後半で33.3%と、30代前半の方がその割合は高い。
 - ・『新しい知識や物の考え方を習得できた』については、85.0%が「そう思う」と回答しており、連続セミナーを通して多様な価値観に触れるという学びは達成できた。さらに、ライフプラン立案まではいかなくとも、『自分がどんなふうに生きたいか明確になった』や『今、自分のやるべきことがわかった』は「少しそう思う」が8割以上を占めるなど、セミナーを受講したことによって、ようやく自分の人生の方向性が見えてきた状態ではないかと推察できる。具体的には「可能性が広がっていることに気づいた」「自分がどのように生きたいのかを考える大切さを知った」「悩み過ぎず目の前のことをしっかりとやる」などという自由記述があった。
- 今回のセミナーの意義は、似たような悩みや不安を抱えた「アラサー女子」が、「学ぶことで一歩を踏み出したい」という同じ意識をもって、公共の

安心できる空間で出会い、関係を構築していくことである。セミナーが終了したから終わりではなく、セミナーは「種まき」でしかないことは、最終回にもきちんと講師によって押さえられた。

○本事業の今後の展開として、ライフプランの描き方のヒントになるロールモデルを紹介する事業を実施する。街の中心部にあるカフェを会場に「ロールモデル・カフェ」を2ヶ月に1回行うことを決定した。今後、このセミナー受講者の中から、企画に関わってくれる人を募り、その人自身が後輩たちのモデルとなれるよう支援していきたい。

6. 今後の課題

○プログラム開発研究会（第3回）で、当初の「具体的なライフプランが描けるようになる」という目標を変更して「ライフプランの描き方を学ぶこと、描く力を持つこと」でもよいのではという意見が出された。仮に、セミナー終了時点で具体的なプランを描けたとしても、30歳前後という受講者の年齢を考えると、今後どのような人と交わるかによってプランは変化していく。このような目標設定に置き換えれば、現行のプログラムでも目標は達成できることになるが、行動に結びつけるための仕掛けはやはり必要である。

○運営についての留意点

- ・実施時期としては、年末年始、年度前後は避け、9月～11月くらいが望ましい。
- ・長期講座であるほど、欠席率を見越して、多めに受講者を受け入れる。
- ・遅刻者に対し一定のルールを決める（開始30分以降は出席扱いにしないなど）。夜間開催の場合、閉館時間もあり、19時以降に開始時間を遅らせるることは難しい。

○セミナーの実施によって、アラサー女子と一口に言っても、20代後半と30代前半では置かれた状況も意識も異なることがわかった。今後、対象をさらに絞り、「30代前半のアラサー女子」に限ってもいい。また、より支援の届きにくい「非正規で働く女子」に絞って、対象者が肯定的に人生をとらえることができるライフプランニング支援事業も手がけたい。

○アラサー世代はすぐ効果や結果の見えるものや正解を求める傾向が強い。満足度の理由を見ても、過程よりもその場のメリットを評価する人が多い。今後、こうした世代の傾向に配慮しながら、人それぞれに課題が違い、応用して自分の答えを自分で見つけることが重要であることをくり返し伝えたい。自ら解決する力をつけることを意識したカリキュラムをプログラムに折り込んでいくことが重要である。

7. チラシ・成果物等

毎日新聞 10月16日(土)

毎日新聞 2010年(平成22年)10月16日(土) 静岡 22

アラサー女子講座人気

静岡市女性会館 自分探しのヒントに

静岡市女性会館は、この秋、働く女子のための講座セミナー「ワタシが選ぶ わかわらのワタシ」を開催。仕事、恋愛、結婚、出産など、アラサー女子には、これまでこれ気にならなくてユニークがいっぱい。やせんなりもつたり、これまでしていなかった女子に絶対おススメ！

【講師】藤沢久美流 キャリア・デザイン
講師 藤沢久美さん
(シンクタンク・ソフィアプラン代表)

【受講料】第1回分の参加料

【会場】アイセル21 静岡市女性会館(第1回と第2回は5・1会場 静岡市東区東草深町3-18 TEL 054-249-7330 http://aicei21.jp)

【会場】アイセル21 静岡市女性会館(第1回と第2回は5・1会場 静岡市東区東草深町3-18 TEL 054-249-7330 http://aicei21.jp)

募集チラシ

アラサー女子限定！ 9/29(水)
から全8回
ワタシが選ぶ

これからわのワタシ



〒420-0865
静岡市東区東草深町3-18
TEL 054-249-7330
http://aicei21.jp

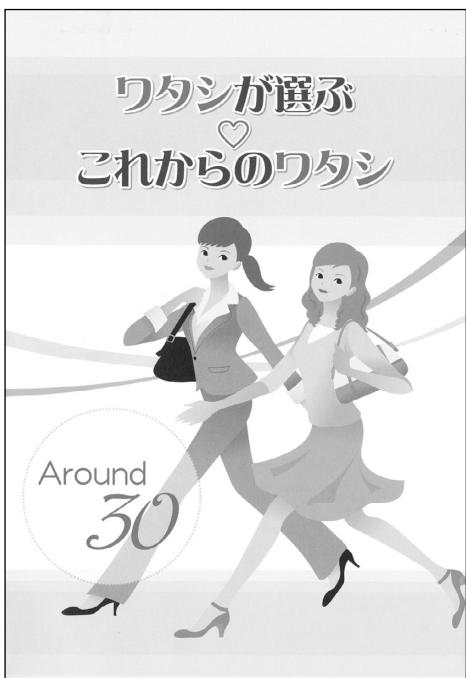
アラサー女子限定！ 9/29(水)
から全8回
ワタシが選ぶ

これからわのワタシ



〒420-0865
静岡市東区東草深町3-18
TEL 054-249-7330
http://aicei21.jp

「ワタシが選ぶこれからのワタシ」 冊子



《連絡先》

特定非営利活動法人男女共同参画フォーラムしづおか

(<http://aicel21.jp>)

住 所：〒420-0865 静岡市葵区東草深町3-18

電 話：054-248-7330 FAX：054-246-7833

E-mail：mail@aicel21.jp

5. 女子中高生のための

ライフプランニング学習プログラム開発事業

特定非営利活動法人関西こども文化協会（大阪府）

1. 事業趣旨

女性の活躍が期待される中、女性自身が人生の様々なライフケーンをどのように捉えるのか、どのように迎えるのかを、考えることが求められている。特に女性は、結婚・子育てなどをきっかけに、仕事やそれまで継続していた事柄を辞めることや、中断することなどの変化を求められる機会が多い。その結果、女性のキャリアアップの機会を逸してしまったことが「女性のライフプラン」における現在の課題の一つとして挙げられる。

これらの現状を踏まえて、女性が主体的にライフケーンを迎えていくためには、教育機関に所属している時期から、学ぶ環境を用意していく必要があり、今後ますますその必要性が求められる。

そこで、本事業の対象者を中学生からとし、学生を対象にした学習プログラムの開発を行う。主体的に人生をプランニングするという、学生が本来もつこの潜在的な力を引き出すことのできる学習プログラムを開発し、働くということは生活することの延長線上にあることや、ワーク・ライフ・バランスをとりながら働いている女性がいること、そしてそのような働き方を応援する行政・企業があること、社会の変化を学び、それらの情報をどのように活用し、今後の自身のライフプランニングにどのように活かしていくかを考えることができるような学習プログラムを開発する。

2. 事業内容

女子中高生のライフプランニング学習プログラム作成のため、以下の5つの取組を行った。

(1) ヒアリング

①ヒアリング

対象：女子中高生

目的：将来の暮らしをどのようにイメージしているのか、将来を考えるのにどのようなことが課題として考えられるのかを調査。

②アンケート

対象：女子中高生

目的：家族や生活、将来について、中高生がどのように考えているの

かを調査。

(2) 講座（ワークショップ）

第1回

対象：成人

目的：ワーク・ライフ・バランスゲームの施行

内容等：子ども向けに実施する前に、ワーク・ライフ・バランスゲームがゲームとして成立しているのか、決めなければならない点はどのようなところなのかを見極めるための試行。

第2回

対象：女子中高生

目的：ワーク・ライフ・バランスゲームのヒアリング

内容等：中高生からゲームに対する意見を得る。

第3回

対象：女子高校生

目的：ワーク・ライフ・バランスゲームの施行

内容等：高校生からゲームに対する意見を得る。

第4回

対象：男子中高生

目的：ワーク・ライフ・バランスゲームの施行

内容等：中学生からゲームに対する意見を得る。

(3) 広報活動

- ・大阪府内の中学校・高等学校へ「ワーク・ライフ・バランスゲームのご案内」を配布

(4) ワーク・ライフ・バランスゲームのツール作成

(5) ファシリテーターズガイドの作成

目的：ゲームの設定や目的の説明と、実際にゲームをする際の注意点や工夫できる点などを明記し、ゲームの実施をしやすくするため。

3. 事業スケジュール

6月	女子中高生のライフプランニング学習プログラム作成協議会第1回
7月	中高生ヒアリング
8月	中学生アンケート調査
9月	中高生ヒアリング・アンケート調査

	女子中高生のライフプランニング学習プログラム作成協議会第2回 高校生へのアンケート調査
10月	女子中高生のためのライフプランニング事業プログラム作成会議第1回・第2回
11月	女子中高生のためのライフプランニング事業プログラム作成会議第3回・第4回
12月	女子中高生のライフプランニング学習プログラム作成協議会第3回 女子中高生のためのライフプランニング事業プログラム作成会議第5回 女子中高生のためのライフプランニングワークショップ試行
1月	デザイン会議 女子中高生のためのライフプランニング事業プログラム作成会議第6回
2月	プログラム事前会議 女子中高生のライフプランニング学習プログラム作成協議会第4回 ワーク・ライフ・バランスゲーム、ヒアリング
3月	ワーク・ライフ・バランスゲーム、ヒアリング ワーク・ライフ・バランスゲーム、試行（高校） ワーク・ライフ・バランスゲーム、試行（中学校）

4. メンバー

「女子中高生のライフプランニング学習プログラム作成協議会」

氏名	所属
安藤 二郎	読売新聞生活情報部担当
井上 聰一	大阪女学院高等学校 教諭
小崎 恭弘	神戸常盤大学 准教授
毛受 矩子	特定非営利活動法人 スマートらいふネット
佐々木 妙月	ジョブコーディネーター
武内 和雄	寝屋川市教育委員会 前中学校教諭
中辻 孝典	大阪府地域コーディネーター
山本 麗子	特定非営利活動法人 ZUTTO
	豊中市教育委員会
	豊中市地域就労支援センター
	特定非営利活動法人 関西こども文化協会事務局

(50音順)

「女子中高生のためのライフプランニング事業プログラム作成会議」

氏名	所属
栗本 敦子	Facilitator's LABO<えふらぼ>
多喜 淳	Galerie6c
松尾 真由子	関西こども文化協会、ブレーカープロジェクト実行委員会プログラムディレクター
柳瀬 真佐子	関西こども文化協会事務局
中村 有美	関西こども文化協会事務局

(50音順)

5. 事業成果

○ゲームを試行することで、男女の考え方の違いがわかった。男性はコインを多く収集することに高い関心を寄せる傾向であったが、女性は逆にそのことを高く評価しない。そのため、女性に対しては、コインを集めること（=お金を稼ぐこと：有償労働）の意義を理解させること、男性に対しては、つながりポイントを集めることの意義（家事、育児、介護など人とつながり助け合いながら生活すること：無償労働）を理解させることが必要だとわかった。

○中・高生の子どもたちは、特に将来の仕事に対する不安が高いことがわかった。不安の種は様々であり、将来仕事に就いたときの人間関係に対する不安や、就職先を探すことの難しさ、また、働き続けることのイメージは「苦しいもの」と感じていることがわかった。

そのイメージを変えるためには、働くことを自分の問題として捉える必要があり、実際に働いている大人の話から、「楽しさ」「厳しさ」「やりがい」「社会とのつながり」などを感じてもらうことであるが、働く大人の話を自分のこととして聞くためのきっかけを、ワーク・ライフ・バランスゲームが作り出すことができると感じた。

6. 今後の課題

(ゲームについて)

- ・このゲームは、「仕事」と「生活」のイメージをシンプル化しているので、ゲームの効果を高めるためにも、その後の振り返りでディスカッションする必要がある。
- ・ゲームを何度も実施する中で、ゲームの完成度が上がる。そのため、現状を完成形として固定するのではなく、対象者や人数によってゲームの内容をアレンジする必要がある。

(普及について)

- ・継続的にゲームを実施しながら、他の場所でもゲーム実施がしやすくなるよう改訂していく。そして、ゲームの回数を重ね、ゲームによる成果をさらに明らかにした後、ファシリテーターズガイドをもとに、ファシリテーターの養成講座を開催していきたい。

7. チラシ・成果物等

ご案内

新しい“キャリア教育プログラム”
「ワーク・ライフバランスゲーム」の一案内

NPO法人 開拓ごとも文化協会
代表理事 藤原真性子

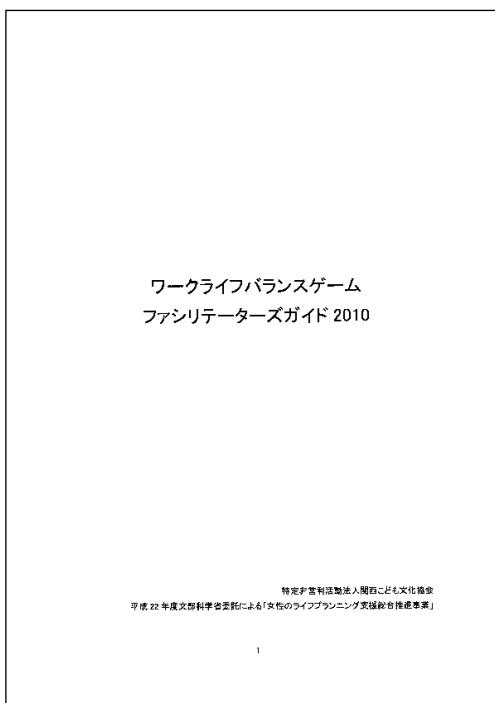
子どもたちが生き生きと自分に叶はれる社会の実現を目指す活動でこれまで多くなってきました。しかし、最近は少しでも変わっていくことのできるうらやましい名前の他にも、就職や就労の問題や就労後の問題、自己有能感の問題、学年ごとの収支問題や学習習慣の変遷、個々の問題が取り扱われています。しかし一方で、それらの具体的な問題が過度の行動規範の拘束や規範からくる問題として挙げられます。したがって、「ワーク・ライフバランスゲーム」は、多くの学校で実施されている就労体験・働く人の開きをりを踏まえ、その中で身体的・精神的・シミュレーションをしながら、働くこと、自律した生活をすることの理解を促すことができます。

募集チラシ

ワーク・ライフ・バランスゲームルールブック

WORK LIFE BALANCE GAME

ファシリテーターズガイド



ワークライフバランスゲーム
ファシリテーターズガイド 2010

特定非営利活動法人関西こども文化協会
平成22年度文科省科学委員による「女性のライフプランニング支援総合推進事業」

1

《連絡先》

特定非営利活動法人関西こども文化協会

(<http://www.kansaikodomo.com/>)

住所：〒553-0006 大阪市福島区吉野 4-29-20 大阪 NPO プラザ 207

電話：06-6460-1621 FAX：06-6460-1628

E-mail：office@kansaikodomo.com